

産直施設と市場流通での生産者受取価格について

1 生産者受取価格の状況

(1) 市場流通

- 生産者受取価格は、小売価格の約42%に過ぎず、小売価格の低下や生産コストの上昇を加味すると、所得は更に減少傾向

〈青果物の小売価格に占める各流通経費等の割合(試算)〉

小売価格(21,110円/100kg)

生産者受取価格 (42.9%、9,056円)	集出荷団体経費 (19.3%)	仲卸 経費 (8.4%)	卸売経費(4.9%)	小売経費 (24.4%)
---------------------------	--------------------	--------------------	------------	-----------------

※平成20年度食品流通段階別価格形成調査(農水省調べ)

※調査対象品目:だいこん、にんじん、はくさい、キャベツ、ほうれんそう、ねぎ、なす、トマト、きゅうり、ピーマン、さといも、たまねぎ、レタス、ばれいしょ、みかん、りんご(16品目毎の20集出荷団体の平均)

(2) 産直施設

- 生産者受取価格は、販売価格の約88%(流通経費のほとんどは利用手数料)
- ただし、出荷可能な量が限定されるため、総所得は市場流通より少なくなる。
- なお、県内野菜の主力品目であるレタスの販売価格100円に対し、生産者の受取価格は84.2円。市場流通では173円が小売価格で、生産者の受取価格は86.2円

2 小売価格の設定について

(1) 市場関係者や小売店バイヤー等からの事情聴取結果

- 大消費地では、産直施設が近隣に立地していないことが多く、消費者のニーズ、店舗の営業形態や品格などを踏まえ、価格を決定。産直施設の価格は参考にはしていない模様
- 地方では、特に産直施設が近隣に立地している場合、価格決定は、消費者ニーズに加え、近隣の同業のライバル店舗の価格を踏まえ、設定している場合が多い模様

(2) 「量販店における青果物の評価基準並びに流通チャンネルの選択意思決定」

(全国及び地方の7量販店への「品質」「量」「価格」に対する意向調査:三重県農業研究所)

- 青果物仕入れ時に考慮する要因は、品質の重要度が非常に高い値を示し、中でも品質の安定の重要性が高い。
- 価格は最も重要度が低いが、低価格より値頃感を求める傾向
- 量についても重要度は低いものの、大量供給より量の安定が求められている。